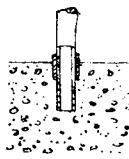


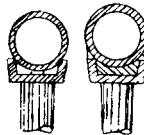
○混泥土橋の欄干に就て 第一圖は柱及び鐵管を用ふる通常の欄干を示せるものにして、内

部の鏽の爲めに間もなく腐蝕することを防くために柱及び鐵管を混泥土又はモルタルを填充したるものなり。



圖一

第二圖は欄干柱を形成せる鐵管を支持すべき通常の柱幅を有する中間の柱を示すものにして、特別の形狀を有する鑄鐵製の軸鞍を柱幅と欄干との間に置きて塗工及び欄干の保存を良好にせしめしものなり。



圖二

第三圖は欄干柱と混泥土との接合する場所に真鍮製の套管(スリーブ)を置けり、此の目的は實驗の結果多く欄干柱を腐蝕せしむるは柱と混泥土との接合する場所なればはこれを保護するためなり而して此の方法はブエンシルヴニア州廳道路課の C.B. Albee 氏の考案になれるものなりと云ふ。(Eng. News, June 17, 1915. T)



圖三

○長徑間を有する混泥土扁拱橋 昨年瑞西國 Aare 河に架せられたる極めて扁平なる拱橋は徑間二六九呎(八二米)拱矢三〇・四呎(九・二七米)にして此の兩者の比は八八なり此拱橋は比較的狹隘にして欄干間の幅は僅々二六呎にて車道は

一六呎の幅を有し、每平方呎に七七磅及び一三噸の重量を有する車輛の通行に差支へなき様に設計せられ、人道は床版を縱桁より外方に張出して作られたり、而して車道に於ける伸縮は三級拱(トライアーチ)にして拱は壓力線に従ひて設けられ、拱腹の幅は一九・七呎にして六二吋、最少なる所にて四八吋にして拱座に於ては五二吋とす、混泥土に於ける最大應力は每平方吋に七〇〇磅以下なり。

車道は六吋の厚さを有する床版にて作られ、拱の上に建てられたる柱上に直接に支持せらるゝ四個の縱桁にて支へられ、人道は床版を縱桁より外方に張出して作られたり、而して車道に於ける伸縮